

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (四国)	◎	－	－	－
	○	商店街（常務理事）	来客数の動き	・依然として物価高騰は収束しておらず、客の消費は低調である。しかし、株式市場は一時期の米国の関税政策による影響から抜け出せたことで、富裕層の消費は堅調である。国内の政局や経済について、先行きが不透明であるものの、現状では人流も活発で、レジャー、観光、宿泊、高額品等の需要を中心に消費が支えられている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークのイベント、そしてその後の週末ごとのイベントではいずれも多くの人でにぎわった。特に、県内からの観光客やインバウンドが、かなり増加してにぎわってきている。
	○	スーパー（店長）	来客数の動き	・芸術祭来場者や行楽客の来店が増加している。
	○	コンビニ（総務）	来客数の動き	・来客数の前年比が3か月前より増加している。
	○	一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・季節要因もあり、来客数はやや増加している。しかし、1つのテーブル当たりの来客数は少ない傾向は変わらない。
	□	商店街（代表者）	それ以外	・米国大統領の関税のために、経済は大きく混乱している。特に地方都市にとって、消費者行動は可処分所得に大きく連動する。グローバル社会のなかで、大国のリーダーの言動は地方都市にまで影響が及ぶ。
	□	一般小売店〔文具店〕（経営者）	来客数の動き	・新年度が始まり、3か月前と比較して、景気は多少改善している。しかし、この状況が続くか否かは不安である。燃料費や運送費が高騰していることから、今後の状況を懸念している。
	□	一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・物価が上昇したことに伴い、母の日商品も値上げや内容量の減少が発生した。しかし、例年と同水準の予約が入り、販売量は前年と同程度であった。ただし、インターネットでの注文が増加し、来客数は減少している。
	□	百貨店（マネージャー）	販売量の動き	・4月に入り、インバウンドは、客数は増加しているものの、売上は大幅に減少した。一方、地元客は来客数、売上共に前年よりも増加している。
	□	スーパー（店長）	単価の動き	・1品単価の上昇が続いているが、景気は変わらない。
	□	スーパー（企画担当）	単価の動き	・前年から、商品単価の上昇が継続している状況である。来客数の伸びは鈍いものの、売上は増加している。
	□	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・前月と同様、前年、前々年と比べて、極端に来客数が少なく客単価も下落している。今後、中小企業の状況は、売上は減少し人件費も上昇することに伴い、より厳しくなっている。
	□	衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・前年を5%程度下回って推移している。前月に引き続き、客の動きが鈍く、客単価も下落傾向にあり、景気が悪化している。
	□	家電量販店（副店長）	来客数の動き	・5月前半はゴールデンウィークの行楽や帰省により、売上の伸びは悪かった。2週目に入り、季節商材中心に売上確保はできているが、来客数は前年比93%と増加していない。
□	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・前月末に人気車が再販になったが、今月末に受注台数が生産予定台数に達するため、再びオーダーストップになる。	
□	その他小売〔ショッピングセンター〕（館長）	来客数の動き	・来館者、来客数共に3か月前と同様、前年に対し5%以上の増加で推移している。	
□	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・韓国や台湾からのインバウンドが順調に推移しており、国内観光客の減少分を補っている。	

□	タクシー運転手	来客数の動き	・大阪・関西万博の影響のため、遍路の仕事がやや少なく、街も夜間の人の動きが活発でない。芸術祭はあるが、遠距離のタクシー客は少なく、景気は良くない。
□	タクシー運転手	お客様の様子	・売上や実車数等は変動していない。また、乗務員不足により、タクシーの稼働率は40～45%にとどまっている。
□	競艇場（マネージャー）	来客数の動き	・来店客に大きな変動はなく、物価の上昇の影響はなくなった。
□	設計事務所（所長）	単価の動き	・セメント以外の資材については、高止まりして落ち着いてきた。
▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・物価高騰に加え、燃料価格の高騰が続いており、客の購買意欲が下降している。家計のなかに占める予備費等の割合が低下しており、以前よりも、客は節約傾向になっている。
▲	一般小売店〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・物価高のため、商品価格を継続して値上げしており、客が買い控えをしている。
▲	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・前年までは大口の図書カードの売上が2件あったが、今年は経費削減を理由に2件共なくなった。
▲	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・前年12月から販売は堅調に推移していたが、4月からの商品値上げラッシュに加え、米国の関税政策の影響により、消費マインドが低下している。
▲	スーパー（統括担当）	単価の動き	・物価高による単価上昇で、利益は確保できているが、消費者にとっては大変な暮らしが続いているとみられる。
▲	スーパー（人事）	販売量の動き	・米の価格が上昇しても米の需要は変わらないが、他の商品を節約している。
▲	スーパー（財務担当）	来客数の動き	・来客数が前年割れとなった。
▲	コンビニ（店長）	単価の動き	・来客数は増加しているが、物価上昇分ほどに客単価は上昇していない。1人当たりの買上点数が減少している。
▲	コンビニ（店長）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク頃より、やや消費の伸びが失速してきた。ゴールデンウィークが明けると、商品単価が上昇し、売上はほぼ横ばいで、来客数はわずかに減少している。
▲	コンビニ（商品担当）	単価の動き	・小麦の価格はやや安定している。一方で、米、肉、卵の価格が安定せず、野菜の価格は高騰しているため、消費の抑制がみられる。
▲	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・例年、5月はゴールデンウィークにイベントを実施しており、その時期は大変景気は良いが、その時期を過ぎると景気が落ち込んでいる。今年は特にその傾向が強い。
▲	家電量販店（店員）	販売量の動き	・来客数は変わらないが、下見感覚で来ており購入まで至らないケースが多い。
▲	乗用車販売店（役員）	お客様の様子	・客が今後の景気に不安を感じており、景気はやや悪化している。
▲	その他専門店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・酒類は4月1日より値上げがあったことから、現在は値上げに伴い売行きが悪い。
▲	都市型ホテル（経営者）	お客様の様子	・諸物価の上昇や政情不安などにより、支出を伴う外出が抑制されている。
▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・物価が上昇し、来店頻度が減少した客が増加した。
▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・働き方改革で定休日を増やした結果、売上は減少した。
×	*	*	*
◎	—	—	—
○	*	*	*
企業 動向 関心			

関連 (四国)	□	繊維工業（経営者）	取引先の様子	・前々年、前年と順調に推移しており、注文が前年よりもやや増加している。特に、春からは観光地に、観光客やインパウンドが押し寄せており、活気がみられる。しかし、地方の小売店では、米を始めとした食品の大幅な値上がりの影響で、生活雑貨品の買い控えがある。
	□	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・受注状況は横ばいである。夏以降は受注状況の改善を見込み、価格改定を行い利益を確保する方針である。
	□	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・国内では、大規模工事が実施、計画されているものの、慢性的なオペレーター不足や資材価格高騰等の影響を受けている。一方、海外では、一部地域を除き、ここ数年の急速な需要増加傾向が落ち着いてきている。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・資材高騰の影響により、景気が良くない状況は変わらない。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ようやく公共工事が1件受注できたが、例年より出足は悪い。
	□	通信業（企画・売上管理）	受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィーク前ということもあり、映画やレジャー関係のスポンサーのCM出稿が多かった。
	□	通信会社（総務担当）	それ以外	・フードドライブで、これまでは米が100キロ程度提供されていたが、5月はほとんどなかった。
	□	税理士事務所	取引先の様子	・取引先の状況を確認したところ、特段の変化はなかった。
	▲	化学工業（所長）	受注量や販売量の動き	・特筆する理由はないが、景気はやや悪くなっている。
	▲	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・当地域の自動車関連企業は、電池の原料単価高騰に大変苦戦している。一時的に活気はあったが、現状では、やや活気が失われている。
	▲	金融業（副支店長）	取引先の様子	・住宅やマンションの販売戸数が、前年より減少している。
	▲	不動産業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・建築費や人件費が上昇しており、客の要求がかなり厳しい。また、銀行も融資に慎重になっており、取引が活発でない状況が続いている。
	×	—	—	—
	雇用 関連 (四国)	◎	—	—
○		—	—	—
□		人材派遣会社（総務部長）	求職者数の動き	・人手不足のため、採用を実施したい企業は多いが、求職者数が追い付いていない。
□		職業安定所（求人開発）	周辺企業の様子	・どこからでも、景気が良くなったという話を聞かない。
▲		求人情報誌（営業）	採用者数の動き	・来春卒の新卒採用に関する結果が出そろってきた。中小企業は軒並み苦戦しており、採用人数が予定に達していない会社が多い。まだ就職先を決めていない学生の確保に動く企業、中途採用に切り替える企業、2027年卒採用に向けて早期に活動を始める企業と分かれるが、即座に人材を確保するのは難しい状況である。
▲		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・契約更新の際に、従来契約を継続する割合は年々低下し、同じ売上でもより多くの手間を要するようになっており、どの業界でも同様と思うが、事業を根本から見直す必要がある。
×		—	—	—